

## インフルエンザ 2015/16 シーズン

2016年36週から2016/17シーズンに入った。新たなシーズンとなったため昨シーズンの状況をまとめた。

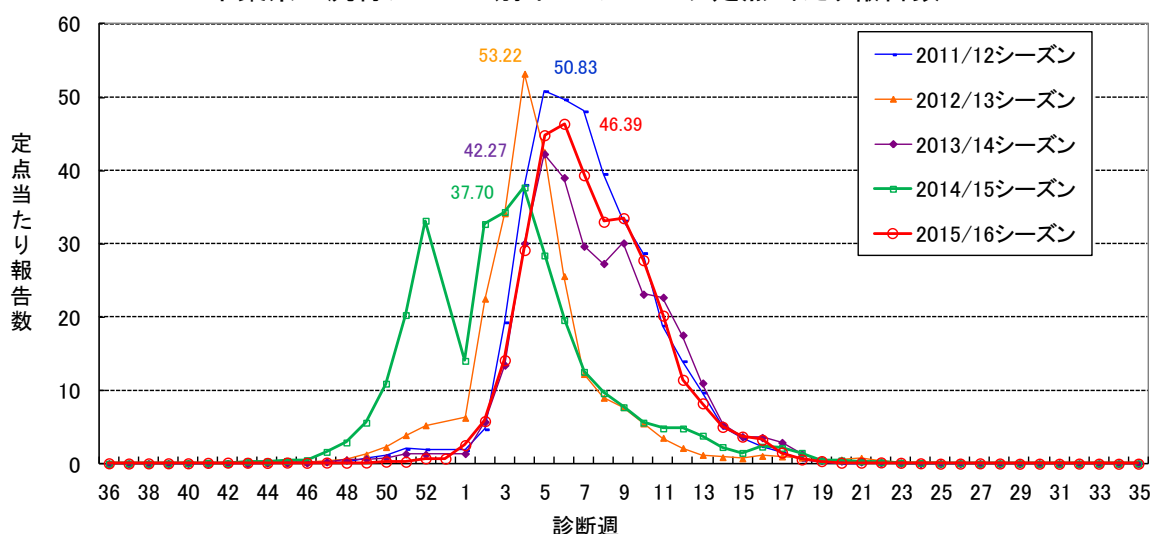
2015/16シーズンの千葉県におけるインフルエンザは、2016年1週に流行の目安としている1を超え2.54となり、3週に注意報基準値である10を超え14.13に、5週には警報開始基準値である30を超え44.83となった。その翌週の6週にピークとなる46.39となった後、9週に一旦増加したものの、減少を続け、13週に警報終息基準値である10を下回る8.24となった。

<参考>

千葉県健康福祉部疾病対策課 インフルエンザ流行状況

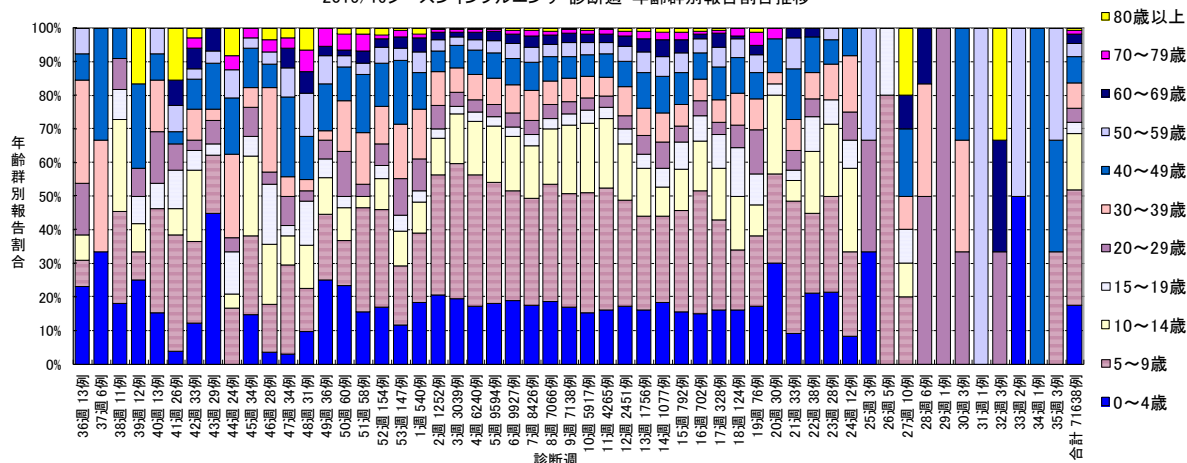
URL: <http://www.pref.chiba.lg.jp/shippei/kansenshou/influenza/influ2009.html>

千葉県の流行シーズン別インフルエンザ定点当たり報告数



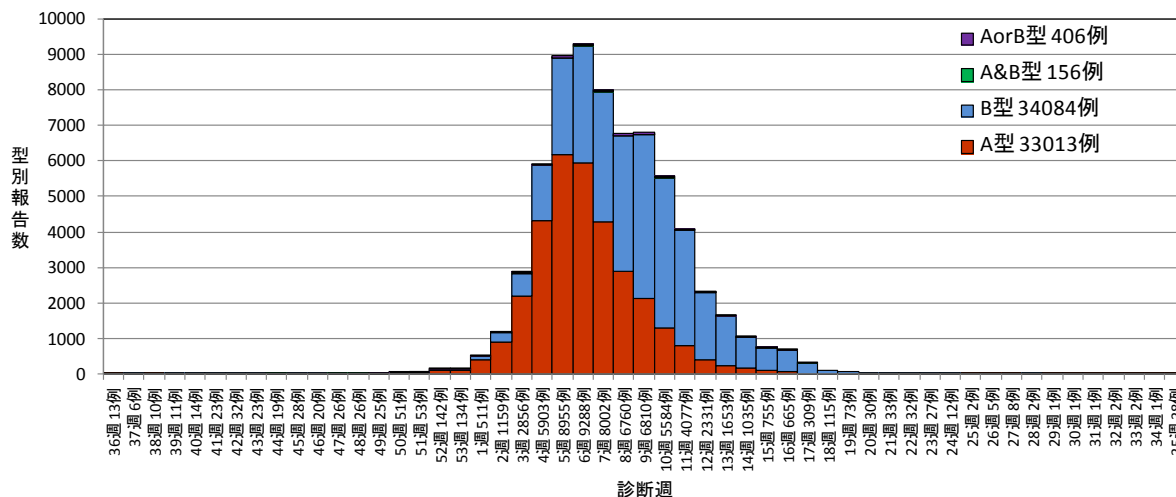
2015/16シーズンに千葉県でインフルエンザとして報告された71,638例の年齢群別報告数は、0～4歳12,590例(17.6%)、5～9歳24,510例(34.2%)、10～14歳12,010例(16.8%)、15～19歳2,447例(3.4%)、20～29歳2,930例(4.1%)、30～39歳5,523例(7.7%)、40～49歳5,469例(7.6%)、50～59歳2,861例(4.0%)、60～69歳1,983例(2.8%)、70～79歳892例(1.2%)、80歳以上423例(0.6%)であった。

2015/16シーズンインフルエンザ 診断週・年齢群別報告割合推移



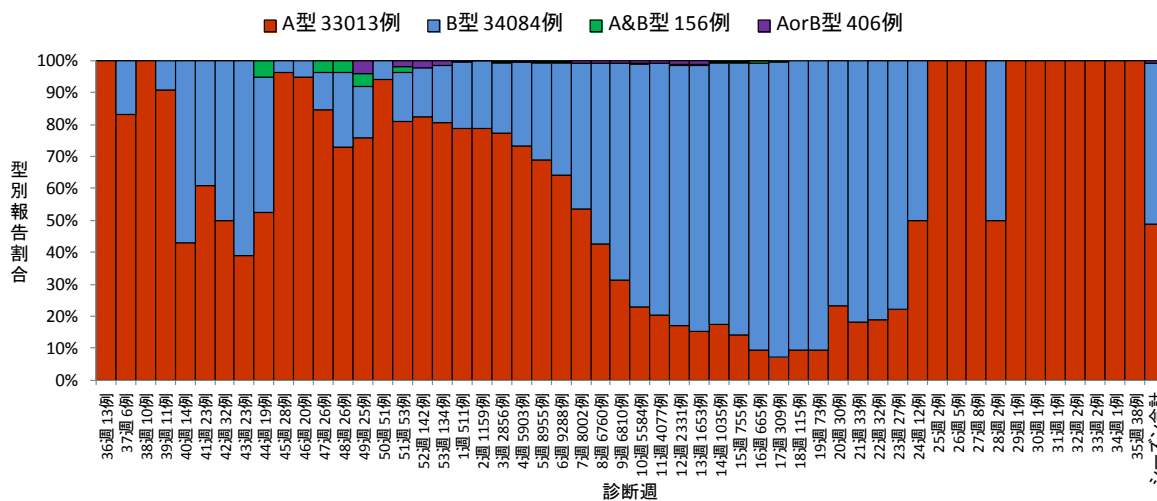
2015/16シーズンの小児科・インフルエンザ定点医療機関の協力による迅速診断結果 67,659例の内訳は、A型 33,013例 (48.8%)、B型 34,084例 (50.4%)、A型とB型両方陽性 (A and B) 156例 (0.2%)、型非鑑別キットで陽性 (A or B) 406例 (0.6%) であった。A型とB型の報告が同程度であった。

2015/16シーズン千葉県におけるインフルエンザ型別迅速診断報告数



2016年1～13週のA型とB型の報告割合は、流行初期はA型が優位であったが、2016年8週以降はB型が優位となった。

2015/16シーズン千葉県におけるインフルエンザ型別迅速診断報告割合



千葉県のインフルエンザ発生状況は、千葉県感染症情報センターのホームページに毎週更新しておりますのでご参照ください。

URL : <http://www.pref.chiba.lg.jp/eiken/c-idsc/#influenza>